

NEW

Visual Studio.NET/.NET Framework関連ツール新製品レビュー

PRODUCTS



ActiveReports for .NET Professional Edition

.NETネイティブの帳票作成コンポーネント



精進湖計算機
立中 秀樹 TATENAKA, Hideki

問
合
先

グレープシティ株式会社

TEL : 022-777-8211

URL : <http://www.grapecity.com/>

FAX : 022-777-8233

MAIL : sales@grapecity.com

Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:

Environment

ターゲットOS

Windows 2000/XP

対応動作環境

Internet Explorer 5.0以上 (推奨)

HTML4.0、HTML3.2に準拠したブラウザ

価格

Standard Edition : 98,000円

Professional Edition : 258,000円

はじめに

Visual Studio .NET 2003がリリースされましたね。みなさんはもう.NET Framework 1.1を体験しましたか？細かい変更が行なわれ、使い勝手や速度が上がっているようです。後追いついていくコンポーネントはあまりに早い開発環境の更新で追いつくのが大変ですが、今回紹介するコンポーネントの発売元であるグレープシティ株式会社(以下グレープシティ)は、.NET関連コンポーネントを順次1.1に対応してゆくとのことです。

さて、これだけ企業などにPCやインターネットが普及した現在でもいまだに業務アプリケーションにおける帳票の必要性は高く、そのうえWindowsやインターネット上できれいな画面を見慣れたユーザーからは帳票にも凝ったデザインが要求されます。当然凝った帳票を出力するためにはアプリケーションの製造工数も上がり、ベンダーとしての価格競争力にも影響してきます。

今回紹介するActiveReports for .NET Professional Editionは、工数をなるべく抑え、凝った帳票を出力するアプリケーションを構築するためのコンポー

ネットです。ActiveReportsは、.NET以前のVisual Basic時代から定評のあるツールなので、ご存知の方も多と思います。以前からある機能に加え、WebサーバーコントロールやHTTPハンドラに対応して進化したActiveReports for .NETを、サンプルを作成しながら紹介してゆきます。

今回ActiveReports for .NETを利用した環境は、Windows XP Professional (SP1)、Visual Studio .NET 2003、SQL Server 2000です。

製品の概要

ActiveReports for .NETは、ActiveX版での実績がある帳票作成コンポーネントです。.NETにネイティブ対応しているため、当然ADO.NETの利用も可能です。

基本的な機能はActiveX版のものと同じで、帳票デザインやコーディングの基本的な方法も以前のものを踏襲しています。ただし、ActiveReportsクラスはWindowオブジェクトではなくなったため、表示を行なうにはViewerコントロールを使用します。

■VSVIEW for .NETとの違い

グレープシティの製品には、この他にも印刷を行なうためのコンポーネントとしてVSVIEW for .NETがあります。この製品でもデータからのレポートの出力が可能で、画面上でのレポートのデザインもできますが、ActiveReports for .NETのほうがより詳細で柔軟なデザインを行なうことが可能です。

とくに配置するコンポーネントが持つデザイン的な機能には多くの違いがありますし、ActiveReports for .NETはダイアログエディタにも対応しているため、細かな配置制御ができます。レポートのデザインもVisual Studio .NETのIDEに組み込まれたデザイナーで行なうことができます。したがって、いちいちデザイナーアプリを起動して、保存したデザインの設定ファイルをVisual Studio .NET上で読み込むなどの処理も必要ありません。レイアウトを同じIDE上で確認できるのもActiveReports for .NETの利点です。

ドキュメントの印刷などにはVS VIEW for .NETを利用し、レポートの作成にはActiveReports for .NETを利用するのが正しい使用方法と言えるでしょう。

■インストール

ActiveReports for .NETのインストールは、セットアッププログラムを実行してウィザードに従うだけです。

この記事の執筆時点でActiveReports for .NETは、すでに.NET Framework 1.1対応のアップデートが行なわれており、今回はVisual Studio .NET 2003上で使用できるバージョンをWebサイトからダウンロードしました。ただし、旧バージョンをすでにインストールしている場合は、いちどアンインストール

を行ない、新規インストールを行なう必要があります。

インストールを完了するにはライセンスの認証を行なう必要があります。インストール画面でライセンスキーを入力するとライセンス認証を行なうための画面が表示されます。認証を行なうにはインターネットへの接続が必須となります。ただし、製品をインストールするPCがインターネットに接続されていなくても別のインターネットに接続されたPC上からライセンス認証を行ない、ライセンスキーを発行してもらってインストールを完了することが可能です。

インストールを完了するとコンポーネントとともに数十のサンプルプロジェクトがインストールされます。これらには基本的な使用方法のチュートリアルと実際の業務などを想定したサンプルが含まれ、チュートリアルには専用のヘルプも付いてきます。このチュートリアルを見たり、サンプルを修正して利用することで、このコンポーネントの機能の習得や実際のアプリケーションの構築をととてもスムーズに行なうことができます。内容も機能ごとに詳しく解説されているので、コンポーネントを利用する上で大変参考になります。

Sample 1 簡単な

データバウンズレポート

はじめにデータベースに格納されたテーブルの単純なレポートの作成を行なってみます。ほとんどコーディングを行わずに定型レポートを作成できることがわかるでしょう。

データベースは、ローカルPC上で動作しているSQL Server 2000を使用します。SQL Serverをインストールするとデフォルトで作成されるNorthwindデータベースを使用し、Customersテーブルの内容をレポートにしてみます。

Visual Studio .NETで新しいプロジェクトを作成し、プロジェクトテンプレートは「Windowsアプリケーション」を使用します。

まずはツールボックスにコンポーネントを組み込みましょう。ツールボックスを右クリックして「アイテムの追加と削除」を選択し、「ツールボックスのカスタマイズ」ダイアログを開き、ActiveReports for .NET関連のコンポーネントにチェックを入れます(図1)。名前空間が「DataDynamics.ActiveReports」で始まるコンポーネントをすべてチェックして「OK」ボタンをクリックすれば、ツールボックスにコンポーネントが表示されます。

図1：コンポーネントの参照設定

